

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 中原、千賀 (SL)、湊、池田、義間、藤戸、矢古宇 (CL)
2. 山城／ルート 西穂高岳 丸山の手前 雪上トレ (冬山企画班企画)
3. 交通手段 自家用車 (千賀、池田)
4. 行動記録

<入山日：2016年12月3日 下山日：2016年12月4日>

第1日 (12/2 (金))

21時神戸近辺各所出発 →

第2日 (12/3 (土))

1:30~2:00 道の駅「奥飛騨温泉郷上宝」 仮眠

7:00 起床 → 8:00 移動開始 → 8:20 新穂高ロープウェイ駐車場

9:00 新穂高ロープウェイ → 9:30 西穂高口着

9:50 西穂高口発 → 11:30 西穂山荘着 テント設営等

12:25 出発 → 12:30 トレ場 (緊急ヘリポート付近)

12:40 トレ開始

支点構築：ブッシュ、スノーバー、デッドマン、土嚢、スノーポラード

スタンディングアックスビレイ&自己脱出

*確保しながら、懸垂下降での支点強度の確認

第3日 (12/4 (日))

5:00 起床 → 6:55 テン場出発 → 7:20 トレ場 (丸山の手前)

7:30 トレ開始

ビーコン捜索：3人Grで、捜索、掘り起こしヒューマンチェーンでの移動
までの流れを確認

8:20 トレ終了、移動 → 8:30 トレ場 (緊急ヘリポート付近)

8:30 滑落停止練習 *念のため、ロープで確保

9:30 トレ終了 テン場撤収 10:30 テン場出発 → 11:30 西穂高口着

12:10 新穂高ロープウェイ → 12:40 中崎山荘「奥飛騨の湯」

→ 赤かぶの里 → 帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

予定ルートをはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由

・当初の予定は五竜 (遠見尾根) であったが、積雪量不足のため、西穂高岳 (丸山付近) に変更とした。

b) 事故に繋がりそうな要因 (ヒヤリハット) が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

- ・トレ場への移動中、Yさんのアイゼンの調節ブレードが外れた。確認したところ、ブレード固定部分の爪が折れていた。
- ・Iさんの滑落停止の練習中、確保のロープが身体に巻き付いた。

c)パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

・リーダーではあったが、山行先選定、天候等の準備も含め、山行中の行動判断等、リーダーシップが取れず、先輩方にかなり頼ってしまっていた部分がある。経験不足という点を差し引いても、反省点が多かった。今後の山行の際に、活かせたらと思う。

・積雪量は多くはなかったが(30~40センチ程度?)、予定していたトレの内容を一通り指導してもらうことができてよかったと思う。

【反省会】

中原：今回は基本的なことのみにあつたが、短い時間で集中的に実施できたのでよかったと思う。

できれば、トレの成果としてのピークハントも念頭に(歩行、アイゼンワーク含め)、2泊3日程度の日程が組めるといいのではないか。

雪上トレは、毎年続けていくことが必要であろう。

千賀：再度、トレを企画して、今回学んだ手順を確認したい。

スタンディングアックスビレイの自己脱出は初めてだったので、よかった。

湊：やってみないとダメだということがわかった。

池田：全て勉強になりました。実際にやってみることが大事、本ではわからない。

ありがとうございました。

義間：中原さん、千賀さんに教えて貰えるいい機会でした。

土嚢の支点構築は身につけたい。

藤戸：ご迷惑をお掛けしました。歩荷不足でした。

今回の雪上トレーニングは私にとってどんな雪山をしたいのかを考える良い機会になりました。

やっと装備を整えた初心者がこれから行きたいと思う山を考えるチャンスをいただきました。

矢古宇：CLでありながら、山行まで、また、山行中も、十分に動くことができなかった。

反省点として、次回に繋げていきたい。

今まで何度か行ってきたことを改めて確認することができてよかった。

スタンディングアックスビレイで止めるのは難しいことを再認識した。

全般：

・雪上トレを毎年実施するのであれば、実施メニューを考えた方がいい。

EX. 初心者、初級者(ステップアップ)

・雪上トレは、11月末ではなく、積雪量の多い時期に実施した方がいいのではないか。

・実施時期に関しては、2-3回設定し(Ex. 11月、12月、1月)、繰り返し練習を行えばいいと思う。

・今回の支点構築、確保の実践の場として、大山北壁(弥山尾根)に挑戦するのはどうか。ただし、自分達で行くという意識で臨む(連れて行って貰うではダメ)。

比較的登りやすいルートでもあり、いい練習、経験になる。



駐車場からの穂高連峰



出発前



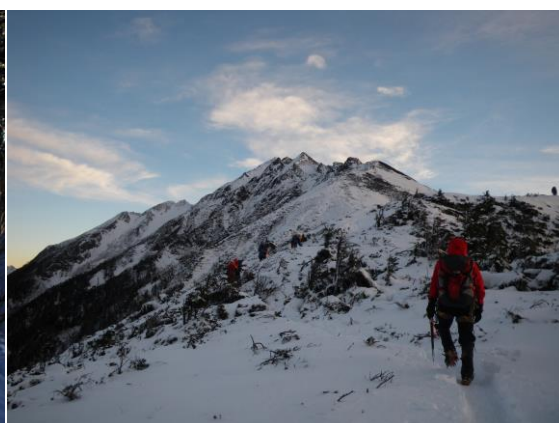
枝を使った支点構築



スノーボードでの支点



スタンディングアックスビレからの自己脱出



2日目、西穂方面に向かう



滑落停止練習



ビーコン搜索



滑落停止ではなかなか止まらない---



西穂をバックに

報告者氏名 矢古宇靖子

2016年 12月 17日